

一ノ倉沢衝立岩中央稜アイゼン登攀 山行報告

(山城) 谷川連峰

(コース) 一ノ倉沢衝立岩中央稜

(日時) 2018年10月29日～30日

(天候) 29日：晴れのち曇り、30日：晴れのち雨

(参加者) 前田、松原

(山行タイム)

10月29日(月)

4:30 千葉出発→7:50 土合駐車場出発→8:45 一ノ倉沢出合→10:40 ひょんぐり滝上懸垂下降→12:10 中央稜取付き→13:30 登攀開始→18:10 四ピッチ目終了点→ビバーク

10月30日(日)

5:20 起床→7:40 五ピッチ目登攀開始→12:25 衝立の頭(登攀終了)→13:00 北稜下降開始→16:30 北稜下降終了→衝立前沢下降→20:05 一ノ倉沢出合→20:30 谷川岳指導センター→ファミリーマート 水上店→帰葉

(山行報告)

冬が近づいてきました。冬山は恐ろしいけれど、やはり挑戦したいので、そのための準備訓練のつもりで谷川岳の一ノ倉沢中央稜にアイゼン登攀とビバークの訓練に行ってきました。なかなかシビアな訓練になってしまい、いろいろな方にご心配とご迷惑をおかけしてしまいましたが、とても充実した訓練となりました。皆様、どうもすみませんでした。

10月29日(月)

谷川岳での訓練、今冬は気合を入れて登るつもりで、訓練も気合を入れた計画を立てました。

その計画について友人であり仕事仲間のわたる君に、仕事中に何の気なしに話していた。自由な生活のわたる君、一緒に遊びに行ってみないかと誘ってみたところ、岩は登らないが、谷川のふもとの山林で遊ぶのは楽しそうだと、同行することになった。わたる君の友人のおおる君も加わって、4人での出発となった。

4:00 前に私の自宅にわたる君とおおる君が到着。とおる君と私は初対面。挨拶を交わして車に乗り込み出発。前田さん宅に向かう。前田さん宅の近くのセブンイレブンには4:30前に到着。予定の5:00より早く到着したが、前田さんには前もって連絡してあったので、4:30頃に合流して出発。

京葉道路と外環がつながって、とても快適になった関越道へのアクセス。6:40に水上のセブンイレブンに到着。買い出しを済ませて、土



土合駐車場出発、紅葉・快晴

合のロープウェイ駐車場へ、準備を済ませて7:50頃に出発。山の麓は紅葉がきれいでした。

一ノ倉沢への舗装路、新鮮なメンバー同士、会話が弾む。とおる君は樹木士という資格を持っているらしく、とても植物について詳しい。また、以前に猟師の手伝いをしていた、溪流釣りが好き、などと、興味の尽きない人である。わたる君も前田さんもなかなか個性的であるし、交わす会話は面白く非常に楽しいアプローチでした。

8:45に一ノ倉沢の出合に到着。一ノ倉沢は初めてのわたる君とおる君に岩壁の説明をする。変態の解説に少し興奮してくれたようだが、登る気は起きなかったようだ。

出合で食事・ストレッチ・水汲み。水汲みの際に、トイレの脇でテントを張っているおじちゃんに話しかけると、10日間ほど滞在して適当に遊ぶそうだ。いろいろなことに詳しくそうな人で、しばらくお話をした。一ノ倉沢に魚のいないこと、おじちゃんの熊体験などを話してくれた。



一ノ倉沢出合にて

一ノ倉沢出合を出発。群馬県谷川岳遭難防止条例のため、入山の届け出をしていないわたる君とおる君は、一ノ沢の出合までしか入ることができない。彼らとは一ノ倉沢出合でお別れ、我々はこのまま進んで岩登り、彼らはここから山林散策を楽しむ予定だ。

ルートを確認しながら懸垂下降点へ到着。ここまで思ったよりもかなり悪かった。いつもよりも荷物が重かったのが苦労した原因かと思う。懸垂下降で沢へ下降。

沢で前田さんと合流してテールリッジへ。重い荷物に苦労して登り始める。

12:10 中央稜取付きに到着。ここでいつも通り大休止。一時間半近く休んでしまった。もっとテキパキ準備できるようにしないと。

13:30 登攀開始。アイゼンを先に着けた前田さんがリード。アイゼンでの登攀は約半年ぶり。なかなか登りにくそうだ。前田さんが登り終わって私もフォローで登る。久しぶりのアイゼンで登る感覚、最初は登りにくかったが、だんだんと慣れてくる。しかし登りにくい。必死



わたる君・とおる君の収穫した「さるなし」。
お土産にとっておいてくれたものを翌日に頂いた。
キウイフルーツのようなアドゥウのような味、おいしい！

の思いで登る。途中、終了点の直下で残置のペツルのヌンチャク(アンジュ)を回収した。もしかしたら先日にここを登った砂田さんや松本さんの忘れものかな、なんて思ったがたぶん違いますね。このヌンチャクは指導センターに預けたので、心当たりのある方は。

出合にいる頃には快晴だった一ノ倉も、だんだん雲がわいてきて、中央稜を登っていると、だんだんとガスに包まれてしまった。登攀開始からしばらくは出合まで見渡せ、出合を散策する人々を見ながら、わたる君ととおる君がこちらを見ているのではないかと眺めていたが、後で聞いたところ、出合は早々に立ち去ったそうなので、クライミング中に私は彼らを見ていなかったようだ。

以前に中央稜は2度登っている。その時の記憶からビバークには衝立の頭・その1ピッチ下のテラス・4ピッチ目終了点のテラス、このいずれかを考えていた。予定だと衝立の頭まで行く予定であったが、とてもそこまで登れるスピードではない。アイゼンと重荷でなかなか進めず、4ピッチ目を登攀中に日没。

ヘッドンでの登攀となる。アブミを使って核心のチムニーを越え、終了点のテラスへ到着。前田さんも真っ暗な中フォローで登ってくる。

18:10テラスで合流。今日はここでビバーク。荷物の整理を始めるとほどなく着信が、出ると谷川岳指導センターからである。わたる君たちが私への電話が繋がらないのを心配して指導センターに相談したとのことでした。電話でこちらの行動を説明して、問題のないことを伝えることができた。

狭いテラスで道具の整理や自分の安全確保など、手間取りながらも整理整頓し、ひと段落してからやっと落ち着いて飲み始めることができた。昼過ぎからほとんどガスに包まれていた一ノ倉の空は、日が暮れて少したった頃にはすっきりしていて、星や月がきれいに見えている。しばらく飲んでから就寝。



3ピッチ目、出だしのトラバース



4ピッチ目終了点でビバーク、お疲れ様

10月30日(火)

5:20頃に起床。快晴である。寒さに震えてろくに眠れないままに登攀を開始するかと思っていたが、思っていたよりも寒くなく、快適に眠ることができ、寝坊してしまった。身支度を整えつつ食事をしてお茶を飲む。

7:40頃に5ピッチ目を登攀開始。前日からの順番通りに前田さんがリード。今日もアイゼンでなかなか登りにくい。登り始めてほどなく、雨がぱらぱら。最初は気にしなくてもよさそうな程度だったが、だんだんと普通程度の雨になった。雨時々みぞれ。装備的には問題ないので、あまり気にしないで登り続ける。

12:25 衝立の頭に到着。時間がおしている。計画よりも2時間程度遅い。計画では一ノ倉岳に抜けるつもりであったが、この悪天と時間の遅れ、さらに、衝立の頭から一ノ倉岳に抜けるには我々にとって未知のルートをとらねばならない。計画を変更して、北稜を下降することにした。北稜は何度も通ったルートなので、なんとなく安心だ。

衝立の頭での休憩もそこそこに、13:00北稜の下降を開始。北稜を衝立の頭から下降するのは2年ぶりである。懐かしく思いながら下降した。1ピッチを下降し終えて前田さんと合流し、次のピッチへ向けて作業していると、回収中のロープが動かなくなった。しまった！ロープ末端の結び目を解くのを忘れた。。ロープを引っ張ったり揺さぶったり、少し試したが手ごたえはなく、仕方なくこのロープをFIXとして使って登りかえすことに。

前田さんと私と一つずつ装備していたタイブロックを、合わせて2つ使って登りかえしの準備をする。ダブルロープ2本のうち1本は回収できたので、これを結び合せて、FIX



夜明け



衝立の頭、登攀終了



北稜下降、1ピッチ目

が壊れた時に備えて確保する。FIX ロープに体重をかけるとかなり伸びる。なかなか離陸できない。スリングに足を乗せるのにアイゼンが邪魔なのでいったん外した。やっと離陸するも、雨でぬれた岩はアイゼン無しのゴム底だとかなり滑る。ロープを伝って登るだけではあるが、もしも不意にロープの引っ掛かりが抜けたら急転落下である。しばらく登るとちょっとした岩角にスリングをかけることができた。1ピン目取れました！さらに登ると灌木に巻かれた残置スリング、もう少し登ると残置のハーケン数本にとスリングなど、非常にありがたい。結局取れた中間支点は4カ所、心強いものでした。



登り返し

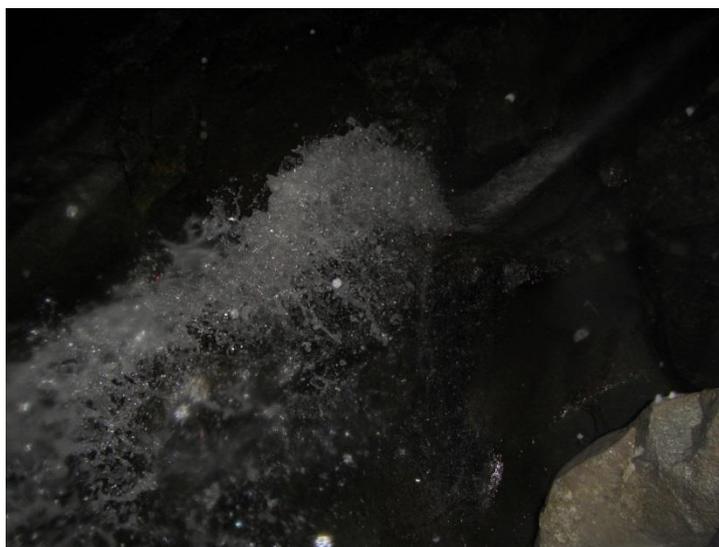
引っ掛かりの原因は、下降点直下の岩の隙間に結び目が引っかかっていたことでした。これではロープを揺すっても引っ張っても外れない。登り返しを早く決断できてよかった。

ロープをセットし直して下降。前田さんと合流できたのは14:20頃。ここから数ピッチ懸垂を繰り返す。途中の空中懸垂が非常に苦しい。今までにない感覚だったが、原因はおそらく重荷のせいだろう。

懸垂下降の終了であるピナクルには16:30頃に到着。ここでわたる君と山行管理の堀田さんに下山の遅れを連絡。この地点以降は私の電話機では土合駐車場まで電波が入らず、連絡が取れない。後で問題となるのだが、ここでの失敗は、私が下山の想定時間を19:00と甘く想定したこと、こちらの行動の変更をきちんと伝えなかったこと、さらに、登山経験のないわたる君たちに我々の活動の説明が足りなかったことだと思う。下山時刻を21時程度と伝えておけばよかった(実際に下山は21時くらい)。

北稜の下降を終えて、後は安心なはずの衝立前沢の下降。しかしここも甘くはなかった。沢に降りた時点でアイゼンは外した。これは正解だったと思う。しかし、滑る岩の多いこと、なかなか苦勞した。しかも日は暮れてヘッドランプである。なかなかスムーズには進めない。いつもなら普通に通過できるような場所でもロープを出して懸垂下降をした。何とか衝立前沢を19:00頃下りきり、最後の核心、ひょんぐりの滝へ。

こんなに増水しているのは初めてだ。激流と轟音に圧倒される。まずはひょんぐりの上のチョックストーン的な部分の下降。怪しげな残置スリングを頼りに水流の脇を降りる。さらに水面上をすこしへつってひょんぐりの真上へ。ものすごいひょんぐりだ。昨日の朝の様子とは全然違う。おじいちゃんのちょろちょろ、なんて昨日は話していたが、目の前にあるのは怪獣のものであろう。懸垂下降



すごいひょんぐり

で着水点脇に降り立つ。この先進めるのか不安だったが、大丈夫そうである。この先を何とかフリークライミングで超えてスラブの上に立った。もう安心かと思ったが、まだ怖い。濡れたスラブ、私の心では容易には通過できない。ここでもロープを出して懸垂下降。案の定、二人とも滑ってロープにぶら下がった。

ようやく見慣れた安全地帯に入った。沢のゴーストに積まれたケルンから藪に入る。しばらく進んで藪を抜けるとほどなく一ノ倉沢の出合だ。お疲れ様でした！

みんなが心配している。急がねば。私の電話は電波なし。前田さんの電話にはたまに入る。かろうじて堀田さんにメールを入れることができた。わたる君には連絡が取れず。とりあえず土合へ向けて出発。しばらく歩くと、マチガ沢を過ぎたあたりで車のヘッドライト。ああーハイエース。わたる君、とおる君ありがとう。助手席には知らない男性。谷川岳指導センターのスタッフである。我々の下山が遅いのを心配したわたる君たちが、一ノ倉の出合まで様子を見に行くのに、指導センターと警察に許可を取って車を進入させてもらったそうだ。皆さんご心配をおかけしてどうもすみません。

車に乗り込み、指導センターに向かう。車の中で電話の電波をチェックする。何とか堀田さんに電話するもなかなかうまくつながらず、そうこうするうちに前田さんの方に田中会長と警察から着信があった。指導センターから奥に車で進入する際にわたる君たちが警察に事情を話したので、我々への現状確認の連絡であった。状況を説明して無事を伝えることができた。指導センターの方にお礼を言って、残置のヌンチャクを預けて帰路にたった。

その後、立ち寄ったファミリーマート水上店にて前田さんが財布を紛失する。ファミリーマートを出立後にすぐに財布の紛失に気付いて戻り、しばらく探した。店員さんに聞いたりあちこち探したり。しばらく探してからとおる君の思い付きでごみ箱の中の探すと財布を発見！とおる君すごい！

現金は抜かれてしまっていたが、カード類は無事なようである。しかし、カードの情報を悪用されるなど、不安だったので警察へ届け出ることにした。交番にて警察署へ連絡した。しばらく待つと警官が到着し、現場のファミリーマートへ。現場で状況を説明していると、別の警察官が到着。別件での合流ではあったが、先ほど電話でお話しした山岳警備の方であった。重ねてご迷惑をおかけしてしまって申し訳ない限りである。しかし、山でのご迷惑について直接お詫びをすることができてよかった。警備隊の方々には「また登りに来てください」とおっしゃっていただき、とてもうれしく感じました。

前田さんの財布騒動を終えて帰路につきました。山行内容、連絡のトラブル、仲間からの気遣いなど、とてもとても感慨深い山行でした。

ご迷惑をおかけした皆様、本当に申し訳ありませんでした。今後の山行ではご迷惑をおかけすることの無いよう、改善していきたいと思ひます。